

弘前市における商業について

ー業種の分布パターンを中心としてー

山 崎 牧 子

I は じ め に

都市の機能の中で商業機能は重要であり、周辺地域に対する影響の強さも年々変化している。

ここでは、弘前市の市街地をいくつかに分け、商業の構成、分布を調べ商業の発達状態や特徴を把握し、各地区の商業における役割について考えてみたい。また特に小売業について考察した。

T a b . 1 業 種 分 類

卸 売 業		
小 売 業	各 種 商 品	○百貨店 ○その他の各種商品
	織 物 ・ 衣 服 身 の 回 り 品	○呉服・服地 ○寝具 ○男子洋服 ○婦人・子供服 ○くつ ○履物 ○かばん・袋物 ○洋品雑貨・小間物（"衣料"と略）
	飲 食 料 品	○各種食料品 ○酒・調味料 ○食肉 ○卵・鳥肉 ○鮮魚 ○乾物 ○野菜 ○果物 ○菓子 ○パン ○米穀類 ○牛乳 ○料理品 ○茶 ○豆腐・かまぼこ ○その他
	自動車・自転車	（"自動車"と略）
	家 具 ・ 建 具 什 器	○家具 ○建具 ○畳 ○金物 ○荒物 ○陶磁器・ガラス器 ○家庭用機械器具 ○家庭用電気機械器具 ○その他（"家具"と略）
	そ の 他	○医薬品・化粧品 ○農機具 ○苗・種子 ○肥料・飼料 ○ガソリンステーション ○燃料 ○書籍・雑誌 ○新聞 ○紙・文房具 ○骨とう品 ○その他の中古品 ○スポーツ用品 ○玩具・娯楽用品 ○楽器 ○カメラ・写真材料 ○たばこ ○時計・眼鏡・光学機械 ○花・植木 ○その他
飲 食 業		○一般食堂 ○日本料理店 ○西洋料理店 ○中華・東洋料理店 ○そば・うどん店 ○すし屋 ○料亭 ○喫茶店 ○その他（バー・キャバレー・ナイトクラブ・酒場・ビアホールを除く）
サービ業		○物品賃貸 ○旅館・宿泊所 ○洗たく・理美容・浴場 ○映画 ○娯楽 ○放送 ○協同組合 ○自動車整備・駐車場 ○情報サービス・調査・広告 ○専門サービス ○医療 ○保健・廃棄物処理 ○宗教 ○教育 ○社会保険・社会福祉 ○学術研究機関 ○政治・経済・文化団体 ○その他の個人サービス・事業サービス ・修理 ○その他
そ の 他		○金融・保険 ○証券・商品取引 ○不動産 ○運輸 ○通信 ○倉庫 ○電気 ○ガス ○水道

（1981年 "弘前市の事業所" より 1982年 "弘前市の商業" より）

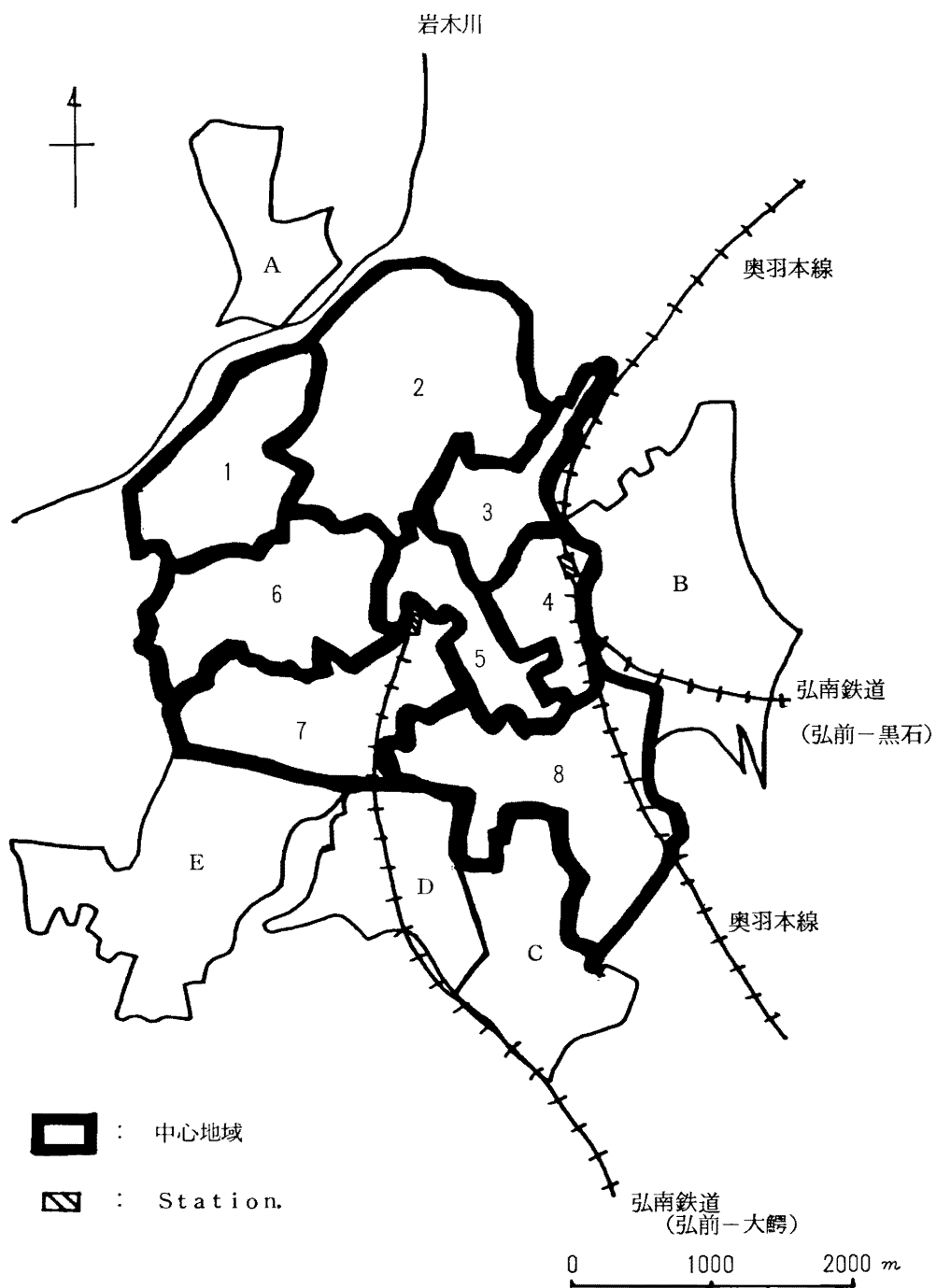


Fig. 1. 対象地域

Ⅱ 調査方法と弘前市の概観

対象地域は弘前市の市街地域とし、ほぼ旧市街地の中心地域 8 区と新市街地の周辺地域 5 区に分けた。(Fig. 1) 業種は Tab. 1 のように分類した。これを、商店数、従業員数、年間販売額、各々の増減率(小売業のみ)及び主な商店街の業種構成について調べた。

弘前市は、人口 175,330 人(1980 年)で県内の 11.5%を占め、増加率は 1975～80 年 6.3%で年々大きくなっている。産業別就業者数では、第 3 次産業が全体の約 60%を占めている。

Ⅲ 弘前市の第 3 次産業の構成・分布と分類

構成を見ると、商店、従業員とも小売業、サービス業が大きい、従業員の割合の方が小さく、飲食業も同様である。卸売業、その他はこの逆になっている。

分布は、どの業種も 50%以上が市街地域にあり、卸売業は交通が整備されている東側、飲食業は中央部、サービス業、その他は中心地域で各々割合が高い。全体で見ると 75～80%が市街地域にあり、北～東部の割合が高く、ここが弘前市の商業の中心地であると思われる。

業種構成から各地区、主要商店街、周辺商店街(Fig. 2に図示)を分類してみる。

1. 各地区の分類

① Type. 1 — № 4. 5. A. E.

小売業、飲食業中心の典型的な小売地区で、中でも№4.5は中央部にあり、割合も高く弘前市、周辺市町村の中心商業地区と思われる。

② Type. 2 — № 2. 3.

小売業が最大であるが販売額で卸売業が高く、小売、流通両面の発達した地区と思われる。№2は飲食業も大きく、南部はType. 1的である。

③ Type. 3 — № 1. 6. C. D.

サービス業が最大であるが販売額で小売業が高く、Type. 1の発達途上か衰退した近隣商業地区と思われ、西、南部に多い。

④ Type. 4 — № 7. 8.

サービス業が最大でType. 3的だが、販売額で卸売業が高くType. 2的で、両者の中間タイプと考えられる。

⑤ Type. 5 — № B.

卸売業が最大であるがどの業種も平均してあり、総合的に発達している。流通の発達が大きく影響している。

2. 主要商店街の分類 ※ () 内は地区の番号

① Type. 1 — 百石町(2)、駅前(4)、下土手町、中土手町、上土手町(5)、本町(6)

小売業、飲食業が非常に高く、地区に占める割合も卸売業以外比較的高い。これらは市街地の中

央にあり中心商業街を形成していると考えられる。

② Type. 2 — 和徳町(3), 松森町(5)

小売業が最大であるが、販売額で卸売業が高く、地区に占める割合は両商店街とも卸売業が高く、流通面で発達している。これらはType. 1の周辺に位置している。

③ Type. 3 — 代官町(3)

小売業が高いがどの業種も平均的で、販売額で卸売業が高い。地区に占める割合はサービス業以外比較的高い。また土手町と駅前を結ぶ位置にあり、Type. 1になる可能性がある。

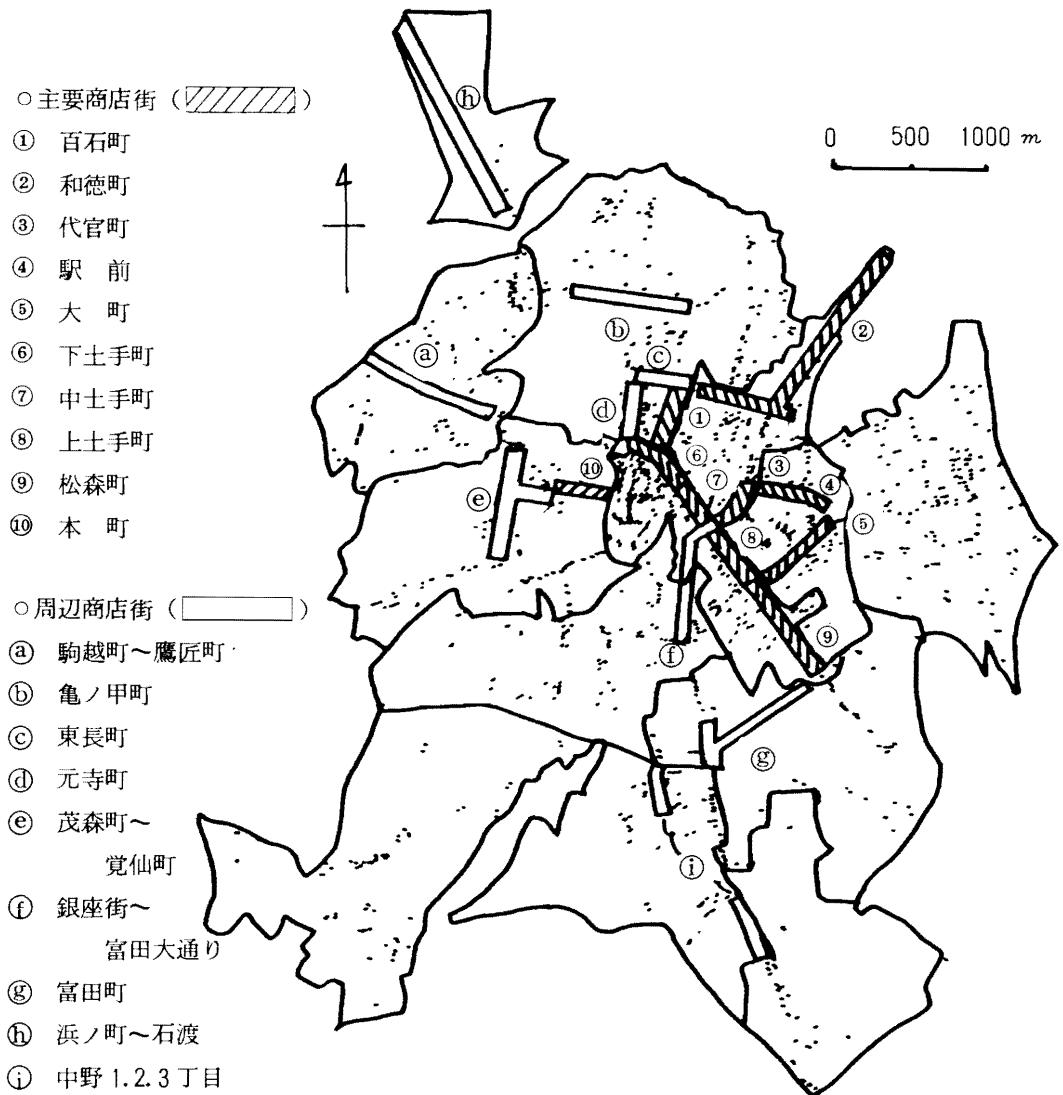


Fig. 2 小売商店の分布

"弘前地域商業近代化地域計画報告書" より

④ Type. 4 — 大町(4)

サービス業が最大で、それ以外は位置関係とも Type. 3 と同様であるが、地区に占める割合で卸売業が高く、Type. 2 になる可能性がある。

3. 周辺商店街の分類 ※ () 内は地区の番号

① Type. 1 — 駒越町～鷹匠町(1), 東長町, 亀ノ甲町(2), 茂森町～覚仙町(6), 浜ノ町～石渡 (A)

卸売, 小売業が最大であるがそれ以外が未発達で, 商業街としては不十分と思われる。北～西部に多い。

② Type. 2 — 元寺町(2), 銀座街～富田大通り(7), 富田町(8), 中野 1.2.3 丁目 (D)

どの業種も平均的にあり, Type. 1 より高次の商業街と思われる。南部に多く各地区, 商店街を結ぶ位置にある。

Ⅳ 弘前市の小売商業の構成, 分布と分類

構成を見ると, 商店, 従業員, 販売額とも飲食料品, その他, 衣料が高いが, 各種商品が従業員, 販売額でかなり高くなっている。

分布をみると, 各種商品は中央部に 100 % あるが減少が目立つ。衣料は 90 % が市街地域にあり, 北東～中央部で高いが, この周辺で増加が大きい。飲食料品は 75 ～ 90 % が市街地域にあり, 北半部で高いが比較的分散している。自動車は 20 ～ 50 % が市街地域にあり, 大部分が A・B に集中している。家具も従業員, 販売額が市街地域で低い。その他は 80 % が市街地域にあり中心地域で高く, ほとんどの地区で増加している。全体で見ると 75 ～ 80 % が市街地域にあり, 中心地域の北～東部で割合, 増加とも大きい。西部で縮小傾向が見られるが, 周辺地域は割合こそ低いが増加が非常に大きい。

以上から各業種を次のように分類した。

① 中心地型業種 — 各種商品, 衣料

② 中間型業種 — 飲食料品, その他

③ 郊外型業種 — 自動車, 家具

Fig. 2 のように主な商店街, 小売商店は分布するが, 構成から各地区, 主要商店街, 周辺商店街を分類する。

1. 各地区の分類

① Type. 1 — A・4・5.

各種商品が従業員, 販売額で高く, 中心地型業種主体の高次の小売地区と言えるが, 成長は伸び悩み傾向にある。

② Type. 2 — A・3.

その他, 自動車以外がほぼ同率の総合的に発達した小売地区で, 増加も大きい。周辺市町村の入

口に位置し、交通の整備によってさらに発達すると考えられる。

③ Type. 3 — № B.

自動車が高く郊外的な面が強い。増加も非常に大きく、交通の発達でType. 2になる可能性が考えられる。

④ Type. 4 — № 1. 2. 6. 7. 8. A. C. D. E.

中間型業種が高くType. 3と共通するが、自動車が低く郊外的な面が弱い地区と言える。

2. 主要商店街の分類 ※ () 内は地区の番号

① Type. 1 — 代官町(3), 下土手町, 上土手町(5)

中心地型業種が高く、下土手町は各種商品が大きく影響している。これらは市街地の中央にあり、中心商店街を形成している。

② Type. 2 — 百石町(2), 駅前(4), 中土手町, 松森町(5), 本町(6)

飲食料品が高いが、Type. 1に連続する百石町, 駅前, 中土手町は衣料が高く、地区に占める割合も大きい。これらは中心商店街に近い性質の商店街と考えられる。

③ Type. 3 — 和徳町(3)

中間型業種が高く、地区に占める割合は衣料以外の業種で高い。構成は近隣商店街的だが、どの業種も平均的な中次商店街と言える。

④ Type. 4 — 大町(4)

その他が高く、地区に占める割合は衣料、飲食料品が低い。この商店街は様々の業種があり、Type. 3より未発達の商店街と思われる。

3. 周辺商店街の分類 ※ () 内は地区の番号

① Type. 1 — 駒越町～鷹匠町(1), 元寺町(2), 茂森町～覚仙町(6), 銀座街～富田大通り(7)

その他が最大で地区に占める割合は元寺町以外は比較的高い。近隣商店街的だが比較的高次と思われる、西半部に多い。

② Type. 2 — 東長町(2), 富田町(8), 浜ノ町～石渡(4), 中野 1. 2. 3 丁目(D)

中間型業種が約50%を占め、南、北部に多い。Type. 1より低次の商店街と考えられる。

③ Type. 3 — 亀ノ甲町(2)

家具が多く、Type. 2の変型と思われる。

V ま と め

弘前市の商業は北東～中央部への集中が大きく、この地区が商業の中心と考えられる。

細かくみると、東部は卸売業、自動車などの交通が整備された地区に多い。北東～中央部は小売業、飲食業、各種商品、衣料など中心地的な業種が発達している。西部はどの業種も平均的にそろっている。これらの地区は、東部を除くと成長がにぶくなっているが、周辺地域、特に南部、北端部では割合こそ小さいが、成長がどの業種も非常に大きくなっている。

また人口との関係を見ると、人口小、減少大の北、西、中央部の地区で割合が高く、人口大、増加大の南部、北端部の地区で低い。

成長は前者がにぶく、後者が著しい。周辺市町村との関連をみても、弘前市の商業が集中している東側の市町村で人口増加が大きく、あまり商業の集中していない西側の市町村で人口増加が小さい。

以上から、弘前市の商業は、市内部、周辺市町村（商圏）の人口が影響を与えていると考えられる。

【参考文献及び資料】

- 杉村暢二，服部銈二郎（1974）： 商店街と商業地域 古今書院 398 頁
- 三上山京子（1968）： 津軽地方における都市の商店街に関する地理学的研究
弘大地理 Vol. 4. 15～22 頁
- 弘前市（1982）： 弘前市の商業（昭和 57 年） 70 頁
- 弘前市（1981）： 弘前市の事業所（昭和 56 年事業所統計調査自主集計結果） 88 頁
- 弘前市商工会議所（1981）： 弘前地域商業近代化地域計画報告書 ― 概要版 ― 44 頁